

令和元年度第4回常磐公園の緑を考える集い 開催結果

日時 : 令和元年 10月31日(木) 14:00~16:00
会場 : 常磐公園
出席者 : 市内在住の市民 5名
旭川市土木部公園みどり課 3名
旭川市公園緑地協会 2名
有識者 1名

I 開催内容

- 1 開会
- 2 自然更新ゾーンの移植位置検討・移植作業
- 3 日本庭園エリアの視察
- 4 閉会

II 会議録

別紙のとおり

点検記録簿

令和元年10月31日14:00～ 調査

移植位置の検討・移植作業について

これまでの集いにおいて、自然更新ゾーンにあるドロノキまたはハルニレの実生を、四阿付近の緩傾斜区域に移植してはどうかと協議していましたが、改めて移植位置の検討を行い、下図に示す位置にドロノキを移植しました。ドロノキは樹高が3m程あり、根が力強く張っていたため移植作業も大変でしたが、みなさんと力を合わせて無事に作業を終えることができました。

その他の検討結果・作業については以下のとおりです。

- ・移植したドロノキの添え木については、緑地協会の方に設置していただきました。
- ・ハルニレの実生についても、今後公園内の適切な位置に移植し、空いたスペースで新たな実生の発生を図ります。

自然更新ゾーンの移植位置検討は、来年度以降も引き続き行っていきたいと考えております。



日本庭園エリアの視察について

日本庭園エリアの視察を行い、このエリアの利用促進を図るため、市民協働でできることを検討いたしました。検討結果は次のとおりです。

- ・エリア周辺の樹木が密に生えており、圧迫感・閉塞感が感じられるため、間伐を行い鬱蒼とした雰囲気の改善を図る。
- ・エリア内の一部の樹木について、集いの際に自分たちで剪定作業を行うのはどうか。
- ・出入口を増やし、エリアへのアクセスを改善する。

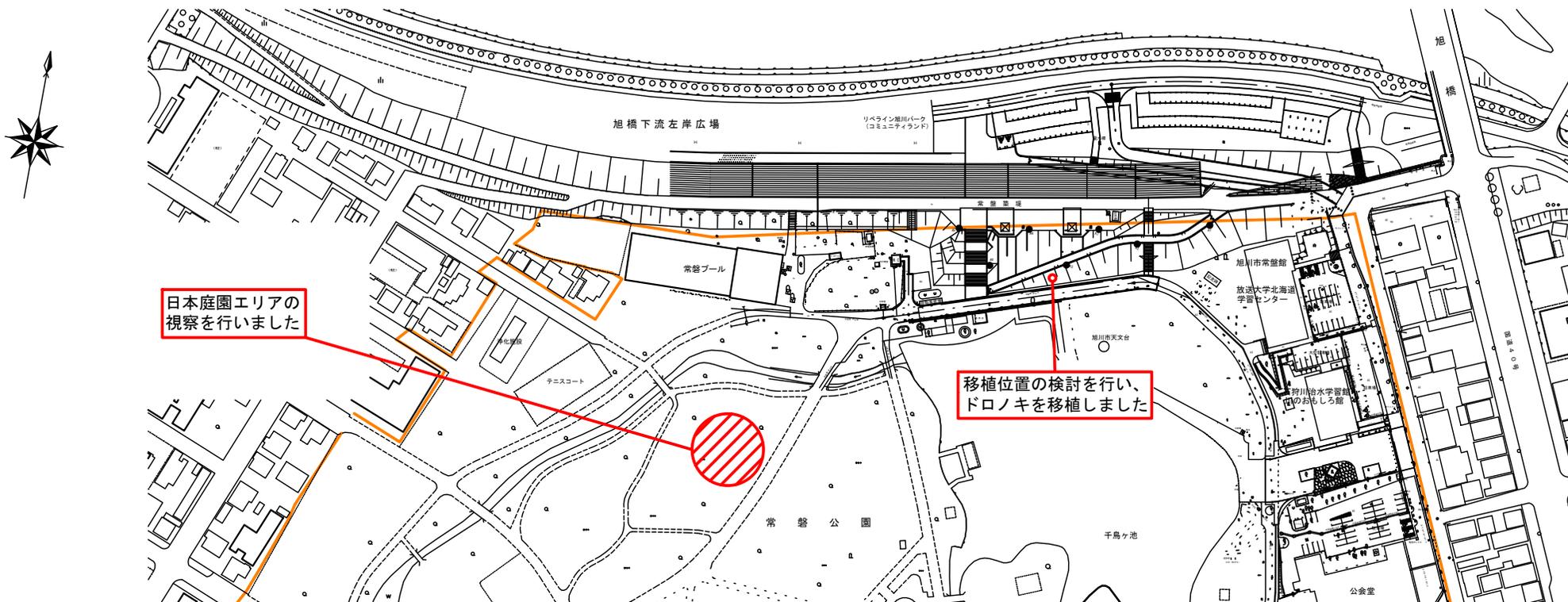
日本庭園エリアの視察は来年度以降も四季毎に行っていきたいと考えております。



その他いただいた御意見等

- ・倒木した樹木(ニセアカシア)のひこばえについて
→伐採した樹木の切株からひこばえが出ていましたが、育成環境が望ましくないことや、樹種が外来種であることなどを考慮し、切株の撤去はしませんが、仮囲いなどをせずに自然の状態を見守ることをみなさんと確認しました。

移植作業の様子 日本庭園エリア視察の様子

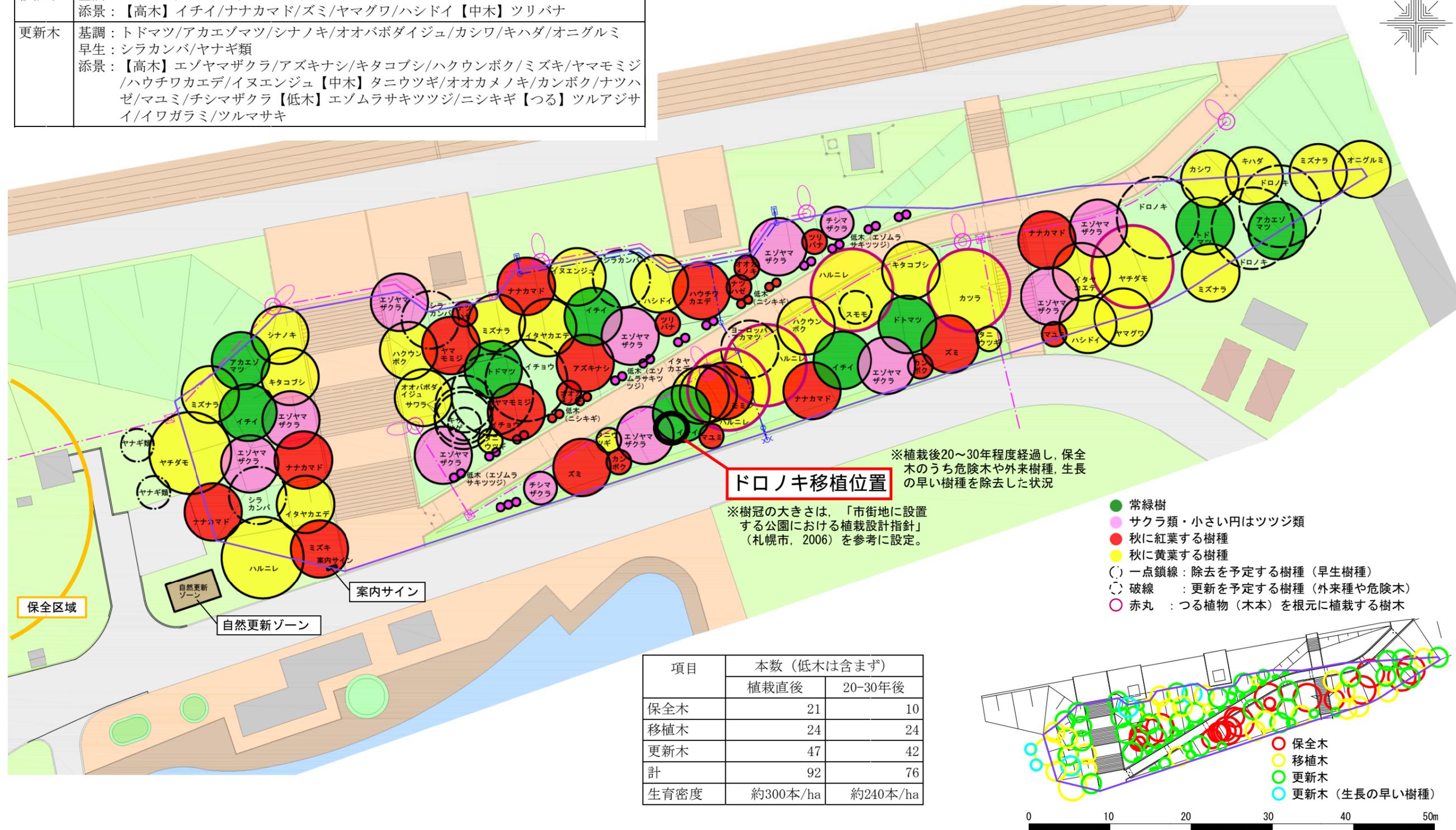


自然更新ゾーンの実生の移植位置について

常磐公園植栽計画（平成27年度策定）より抜粋

(4) 植栽平面図

項目	樹種
保全木	基調：ハルニレ/ヤチダモ/カツラ/ドロノキ/イタヤカエデ/イチョウ/ヨーロッパアカマツ 添景：【高木】イチイ/エゾヤマザクラ/モミジ類/サワラ/キササゲ/スモモ
移植木	基調：ハルニレ/ヤチダモ/ミズナラ/イタヤカエデ 添景：【高木】イチイ/ナナカマド/ズミ/ヤマグワ/ハシドイ【中木】ツリバナ
更新木	基調：トドマツ/アカエゾマツ/シナノキ/オオバボダイジュ/カシワ/キハダ/オニグルミ 早生：シラカンバ/ヤナギ類 添景：【高木】エゾヤマザクラ/アズキナシ/キタコブシ/ハクウンボク/ミズキ/ヤマモミジ/ハウチワカエデ/イヌエンジュ【中木】タニウツギ/オオカメノキ/カンボク/ナツハゼ/マユミ/チシマザクラ【低木】エゾムラサキツツジ/ニシキギ【つる】ツルアジサイ/イワガラミ/ツルマサキ



ドロノキ移植位置

※植栽後20～30年程度経過し、保全木のうち危険木や外来樹種、生長の早い樹種を除去した状況

※樹冠の大きさは、「市街地に設置する公園における植栽設計指針」（札幌市，2006）を参考に設定。

項目	本数（低木は含まず）	
	植栽直後	20-30年後
保全木	21	10
移植木	24	24
更新木	47	42
計	92	76
生育密度	約300本/ha	約240本/ha

図 12 植栽平面図